

公開シンポ／「ライドシェア」問題を考える

2016. 9. 29

宮 里 邦 雄

- 1 本日は、「ライドシェア問題を考える」シンポジウムに、このように多数御参集いただき、ありがとうございます。

本日のシンポは最近にわかに浮上した「ライドシェア」問題を考えるために企画されたものです。

- 2 省みますと、わが国でいわゆる規制緩和が始まったのは、1990年代後半頃からでしょうか。

『規制緩和』は、「規制緩和によって企業は新しいビジネスチャンスが与えられ、雇用は拡大し、消費者には多様な商品・サービスの選択の幅が広がる」という考え方に基づくものでした。

安倍政権が推進する「アベノミクス」もこのような「規制緩和礼賛論」ともいうべき考え方を踏襲しています。

しかし、たとえば、労働市場についてみれば、この間の労働法制の規制緩和によって、人材ビジネスが加速・拡大する一方、非正規雇用の増大など雇用は劣化し、労働者の商品化が進んでいるように思います。

- 3 「ライドシェア」の解禁は、いったい何をもたらすのでしょうか。

消費者たるタクシー利用者の選択肢が増えて好ましいことなのか、安全性に問題はないのか、タクシー運転手の雇用はどうなるのか、などいろいろな疑問が湧いてきます。

「ワークシェア」「ルームシェア」など「シェア」という言葉には何かプラスイメージがあるようですが、コトバによって事の本質を見誤ってはなりません。

- 4 私ども「市民会議」は、いまアメリカで急速に広がっているタクシーの「ライドシェアなるもの」がわが国においても導入されようとしている状況の下で、
①「ライドシェア」とは、そもそも一体どういうしくみタクシーなのか、これ

までのタクシーとどこがどう違うのか、②「ライドシェア」でタクシーの使命である安全輸送は確保できるのか、③事故の責任は誰が負うのか、④タクシー運転手の雇用・労働のありようによどのような影響をもたらすのか、等々の諸問題をタクシーの利用者たる市民とタクシー労働者という双方の視点から考えようということで設けられました。本日は、市民会議が主催する第1回目のシンポジウムです。

5 タクシーは、国民の足として公共交通の重要な一翼を担っています。タクシー事業のあり方は、公共的なテーマであり、国民の日常生活にとっても重大な関心事であります。

私たちは、「成長戦略の為には規制緩和を」という現政権の方針の下で、「ライドシェア」がその持つさまざまな問題点が十分に検証されないまま、導入されようとしていることについて強く危惧しています。

「ライドシェア」問題を多角的に検討し、アメリカでの実態とそこでおこっている問題なども調査・研究しながら、市民と働く人の共通の利益を追求するという視点で「ライドシェア」問題を考えていきたいと思えます。

本日のシンポが「ライドシェア」問題を考える実りある機会となることを期待しております。